

令和５年度「長寿科学研究開発事業」における事後評価について

令和６年６月

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

長寿科学研究開発事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

●総評

本研究事業は、高齢者が老いや高齢者特有の疾患または病態等に罹患しながらも、その人らしく生活を送るために必要な医療や適切な介護の提供に資する研究開発を推進しています。今後、医療や介護人材の確保が更に難しくなり労働力としての制約が強まる中で、限られた人材・資源によって効率的かつ質が担保された医療・介護を提供して高齢者の生活を支援するため、科学的根拠に裏付けられた技術開発や費用対効果を踏まえた新たな提供体制の提案等が必要とされています。

老年医学領域における研究を基礎として高齢者の生活を包括的に支援する基盤整備を推進する観点から研究を進めています。

●対象３課題

NO.	研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
(公募課題名)高齢者看護ケア提供のためのＡＩ技術等を活用した動作支援プログラムの開発研究				
1	AI/AR を活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの開発	真田 弘美	石川県立看護大学	教授
(公募課題名)要介護認定審査におけるプロセス等をサポートするシステム開発に係る研究				
2	機械学習を用いた要介護認定審査におけるプロセス等をサポートするシステム開発に係る研究	高橋 秀人	帝京平成大学	教授

(公募課題名)CHASE・VISIT 等データを用いたケアに係る CDS 開発				
3	CHASE・VISIT 等介護データベースを用いたエビデンス創出と科学的介護実践に向けてのサポートシステムの構築	田宮 菜奈子	筑波大学	教授

「AI/AR を活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの開発」は、概ね計画通り実証実験まで行い、医療分野の進展、新技術の創出に資する成果が得られた点が評価されました。さらなる研究開発により、在宅医療におけるリスクリソングや教育ツールとしての活用や、またリハビリテーションや介護等他分野への活用を期待されます。

「機械学習を用いた要介護認定審査におけるプロセス等をサポートするシステム開発に係る研究」は、要介護認定の自動二次判定システムの構築に向けて、重度化の関連因子を明らかにし、基本的なシステムが構築され、認定審査会における適切かと標準化に寄与する成果と評価されました。多様な自治体でのシステムの検証によるさらなる予測精度向上が期待されます。

「CHASE・VISIT 等介護データベースを用いたエビデンス創出と科学的介護実践に向けてのサポートシステムの構築」は、LIFE 項目に基づき、現状の科学的根拠と日本の介護施設での実践状況・実用可能性の両方が反映されたサポートシステムが開発され、実際の現場においても良好な意見が得られている点が評価されました。LIFE 情報の分析およびエビデンス創出と、それに基づく CDS コンテンツの開発および有用性の検証がなされることが期待されます。

●評価のスケジュール

書面審査実施期間	令和 6 年 5 月 1 日(水)～6 年 5 月 20 日(月)
面接（ヒアリング審査）審査	令和 6 年 5 月 28 日（火）

●課題評価委員 名簿

氏名	所属機関等	役職
石井 恭正	東海大学 医学部 医学科基礎医学系 分子生命科学	准教授
大庭 幸治	東京大学 大学院情報学環/学際情報学府	准教授
小川 敬之	京都橘大学 健康科学部 作業療法学科	教授
片山 陽子	香川県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科	教授
小久保 学	国立長寿医療研究センター 循環器内科部	動脈硬化症科医長
後藤 温	横浜市立大学 学術院 医学群 データサイエンス研究科	教授
田高 悦子	北海道大学 大学院保健科学研究院 創成看護学分野	教授
○玉腰 暁子	北海道大学 大学院医学研究院 社会医学分野	教授
◎徳田 治彦	国立長寿医療研究センター 臨床検査部	部長
永井 久美子	杏林大学医学部高齢医学教室	助手
中山 健夫	京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻	教授
渡邊 慎一	横浜市総合リハビリテーションセンター	副センター長

※氏名の前の符号は、◎は当委員会委員長、○は当委員会副委員長であることを表示。

PS・PO 名簿

	氏名	所属・職名
PS	飯島 節	筑波大学 名誉教授 介護老人保健施設ミレニアム桜台 施設長
PO	數井 裕光	高知大学 医学部神経精神科学講座 教授
PO	鈴木 みづえ	浜松医科大学臨床看護学講座 老年看護学 教授

●評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上